

国土交通省一品確法に関わる6物質
厚生労働省指針13物質
文部科学省基準6物質

非配合

環境配慮型

F★★★★★
申請中

水性架橋型 透湿・高浸透型エポキシ変性カチオン系水性プライマー

カチオン浸透エポプライマー

◆ 特長

- 1. 浸透性** 脆弱下地や緻密な下地に、優れた浸透力を発揮します。
- 2. 密着性** 内・外装用プライマーとして各種建材、旧塗膜に対して優れた密着性を発揮します。コンクリート、モルタル仕上げのバルコニー面等へのフローン無機防水α・HGのプライマーとして幅広く使用できます。
- 3. 水性** 下地(旧塗膜)を侵すことはありません。安心して改修塗装ができます。また、水性なので火気の心配がなく、管理が容易で安全です。

◆ 容量・荷姿・使用量・塗装面積

容量・荷姿	使用量 (kg/m ² ・回)	塗装面積 (m ² /缶)
15kg 石油缶	0.1~0.15	1回塗りで100~150
4kg ポリ缶		1回塗りで 26~40

◆ 乾燥時間

5~10℃	6時間以上
10~20℃	4時間以上
20~35℃	2時間以上
35℃以上	1時間以上

◆ 用途

新設および改修(内・外装、屋上面等)

新設/適正下地

- ケイ酸カルシウム板
- スレート板
- コンクリート、モルタル
- PCa板
- 押出し成型板
- ALC板

改修/適正旧塗膜

- エマルション塗料
- アクリル樹脂塗料
- 塩化ビニル樹脂塗料
- アクリルウレタン樹脂塗料
- リシン、スタッコ※
- 複層弾性、単層弾性
- 吹付タイル

※弾性スタッコへの塗装は避けて下さい。

※上記記載の代表的な素材においては、十分に密着性の確認を行っていますが、メーカー、種類によっては密着性の安定しない場合があります。その他の新素材および特殊素材など確認のとれていない素材もありますので、充分テストの上ご使用下さい。

◆ 上塗適正

内・外装

- アクアレスメル類
- ウレタントップ水性
- シリコントップ水性
- 遮熱シリコントップ水性
- アクアデコーレ
- エコトップ遮熱
- ノントップターキ
- ノントップシリコンターキ
- 断熱コート
- セイフティファイラー
- ソフトン
- 弾性タイルOS
- 弾性タイル21
- ベンチタイル類
- ベンチトップ水性
- シリコンデフィー
- 遮熱シリコンデフィー

防水(コンクリート・モルタル面)※

- フローン無機防水α・HG

※ウレタン塗膜防水材への使用は、塗膜フレの原因となりますので避けて下さい。

◆ 標準工法

工 程	材 料 名	使用量(kg/m ² ・回)	希釈率(%)	塗装方法	塗回数	上塗可能時間(23℃)
下地調整	新設の場合: ●コンクリート、モルタル面はpH9.5、含水率8%以下になるように20日以上養生し十分に乾燥させる。 ●下地は十分に乾燥させる。 ●下地のゴミ、ホコリ等はブラシ、ウェス等で除去し、必要に応じて不陸、ジョイント部、巣穴などは下地処理材で処理する。 改修の場合: ●下地の密着不良部、脆弱、風化箇所、表面の油、ゴミ、ホコリ、コケ等は、高圧水洗(14.7~19.6MPa)、 サンダー、ワイヤーブラシ等で除去し、下地は十分に乾燥させる。 ●条件に適した下地処理材を使用して処理する。					
下塗り	カチオン浸透エポプライマー	0.1~0.15	無希釈	中毛ローラー、ハケ、エアレス	1~2回	2時間以上
上塗り	各種水性上塗塗料 複層弾性 単層弾性 フローン無機防水	個別カタログを参照				

※ケイカル酸カルシウム板、ALC板等、下地の吸い込みが激しい場合は、2回以上塗布して下さい。
 使用量は下地の状況、形状によって増減する可能性があります。

◆ 施工上の注意事項

- よくかき混ぜて均一な状態にしてから使用して下さい。また、無希釈タイプですので希釈はしないで下さい。
- 気温及び躯体温度5℃以下、湿度80%以上あるいは結露している条件下での施工は密着不良、ひび割れなどの原因となりますので避けて下さい。
- 塗装後翌日まで降雨、降雪等の心配がある場合は、施工を避けて下さい。
- 冬期の施工は夜露、結露の発生が考えられますので、午後3時以降の作業は避けて下さい。
- 夜露、高湿度等で被塗物が結露している場合は、ウェス等で拭き取り、乾燥させてから塗装して下さい。
- 上塗りに溶剤系塗料は使用できません。
- カチオン系塗料ですので他の塗料との混合はできません。
- 中毛ローラー、ハケなどの施工具は、他の塗料との共用を避け、使用後は十分に水洗いを行って下さい。
- 他の容器に移す場合はプラスチック容器を使用して下さい。金属容器を使用すると錆が発生する可能性があります。
- 金属部への塗装は行わないで下さい。また、被塗面のまわりに金属部材がある場合は、塗料が付着しないように養生を行って下さい。

ご注意



取り扱い上の注意については、容器に表示された注意事項をご参照下さい。
 詳細内容が必要な場合には、製品安全データシート(MSDS)をご参照下さい。

●お問い合わせは.....

東日本塗料株式会社

本 社/〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-25-18 TEL.03(3693)0851(代) FAX.03(3697)2306
 埼玉工場/〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-13 TEL.0480(65)1515(代) FAX.0480(65)1518
 札幌営業所/〒065-0043 札幌市東区苗穂町9-4-6 TEL.011(743)5271(代) FAX.011(743)5273
 仙台営業所/〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-4-20 TEL.022(291)7372(代) FAX.022(291)7320
 新潟営業所/〒950-0871 新潟市東区山木戸3-7-9 TEL.025(273)5749(代) FAX.025(274)6730
 静岡営業所/〒422-8037 静岡市駿河区下島128-1 TEL.054(238)8061(代) FAX.054(238)8063